



けやき会通信



GLP-1 受容体作動薬について

薬剤部 高橋佳代子

私の書いた年賀状「コロナが落ち着いたらご飯行こうね」、去年と同じと気付いた 2022 年の幕開けでした。檜会の皆様いかがお過ごしでしょうか。

最近のお薬として、内服の GLP-1 受容体作動薬のリベルサス®が発売されました。そこで今回は、GLP-1 受容体作動薬についてのお話です。

GLP-1 とは、元々私たちの身体にあるインクレチンというホルモンのひとつで、食事を摂ると小腸から分泌されます。小腸から分泌された GLP-1 は膵臓の β 細胞にある受容体と結合して膵臓からインスリンを出すよう働きかけて血糖を下げます。また、胃の運動を抑えて食後過血糖にならないようにする作用や食欲を抑制する作用もあります。この GLP-1 を外から補えるように開発されたお薬が GLP-1 受容体作動薬です。

一方、インクレチンは体内で DPP-4 という酵素によって分解されます。この DPP-4 の働きを妨げて、インクレチンの作用を助ける薬剤として、DPP-4 阻害薬（ジャヌビア®、エクア®、トラゼンタ®など）があります。

<GLP-1 受容体作動薬（適応：2型糖尿病）>

（注射薬） 毎日注射：バイエッタ®（1日2回）、ビクトーザ®（1日1回）、リクスミア®（1日1回）

1週間に1回注射：ビデュリオン®、トルリシティ®、オゼンピック®

（内服薬） リベルサス®

GLP-1 受容体作動薬は、食事摂取により血糖値が上昇した際にインスリン分泌を増やすため、単独で使用する場合には低血糖を起こしにくいですが、他の糖尿病薬（SU薬やインスリン製剤など）を使用している場合は低血糖に注意が必要です。他の副作用として、胃の不快感、便秘、下痢などの症状が起こることがあります。

内服薬のリベルサス®は、オゼンピック®の成分である、セマグルチドを内服できるように改良されたものです。リベルサス®は胃の中に食べ物や飲み物があると、有効成分が吸収されず、本来の効果が発揮されません。そのため、空腹時（1日の最初の飲食の前）に、少量のお水（約120mL）で服用し、服用後少なくとも30分は、飲食および他の薬剤を避ける必要があります。また、湿気と光の影響を受けやすいお薬のため、服用の直前に、錠剤をシートから取り出します。ちょっと面倒だな、って思う方もいらっしゃると思いますが、正しく服用することが重要です。

糖尿病の治療薬は日に日に進歩し、使用できる製剤が増えてきています。今後も研究開発が進み、どんどん生活スタイルに合わせた治療が可能になっていくと信じています。

最後に北京オリンピックにも出場するフィギュアスケートの羽生結弦選手の言葉から、「できるときにできることを精一杯やる。できないときはそのときにできることをやる」できないことがあっても、できることを見つけてコロナを乗り越えましょう！！

